

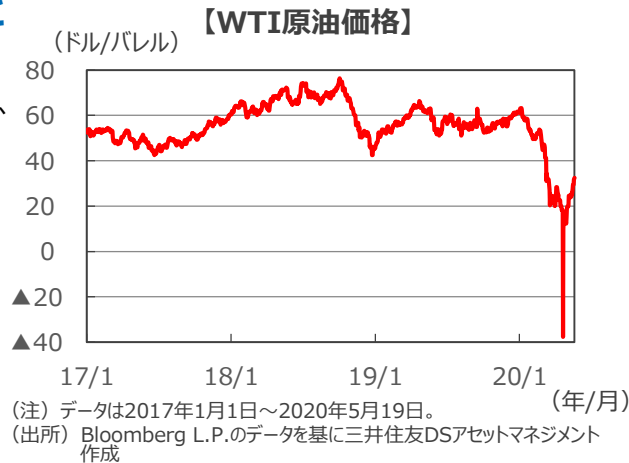


今日のトピック 原油価格回復もまだ十分ではない（2020年5月）
原油価格は依然低水準。経済正常化が待たれる。

ポイント1

原油価格は経済活動再開などを背景に反発

- 北米の代表的な原油価格指標であるWTIは、4月20日、▲37.63米ドルと史上初のマイナス価格になりました。原油生産の1割という歴史的な減産にも拘らず、「供給過剰を解消できない」との見方が大勢を占めたことに加え、先物の清算日を目前に控え投げ売りが出たことによります。
- その後は、「先物の中心限月が6月限に代わったこと」、「5月から合意された減産が実施されたこと」、「各国で経済活動再開の動きが始まったこと」、「米国原油在庫が16週ぶりに減少に転じたこと」などからWTIは上昇に転じ、足元では32米ドル台まで回復しました。しかし、昨年末比では▲47%と依然として半値水準程度に留まっています。



ポイント2

2020年の原油需要見通しは過去最大の減少

- 5月13日に公表されたOPEC月報の5月号では、2020年の世界の原油需要予想は、前月見通しから223万バレル下方修正され日量9,059万バレルとなりました。
- 2020年の原油需要を前年比で見ると、OPECは日量908万バレルの減少、国際エネルギー機関（IEA）は前月見通しから70万バレル上方修正し同860万バレルの減少と予想しています。両社とも、新型コロナウイルスによる経済活動の低迷により、過去最大の需要減少を見込んでいます。

【世界の原油需給見通し】

	2018年	2019年	2020年
世界需要	98.8	99.7	90.6
供給	99.1	99.2	90.6
非OPEC	67.8	69.8	66.3
OPEC	31.3	29.3	24.3
需給バランス	0.3	▲0.5	0.0

- (注1) 需給バランス=供給-需要。
(注2) 単位は百万バレル（日量）。
(注3) 2018年は実績。2019年は実績見込み。2020年はOPECによる予想。ただし、2020年のOPEC生産量は全体の需給が均衡するとの仮定のもとでの弊社算出値。
(注4) 四捨五入の関係で、OPEC、非OPEC供給量の合計は必ずしも全体の供給量と一致しません。
(出所) 「OPEC月報」のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開

今後は、協調減産を継続し、経済正常化を待つ展開

- 原油価格は反発に転じていますが、サウジアラビアの財政均衡レートは80米ドル、ロシアの同レートは40米ドル、米国シェールオイル企業の採算レートは40～50米ドル程度と言われており、現状の原油価格とは依然として大きな隔たりがあります。原油価格の本格的な上昇には、「産油国による大規模な協調減産の継続」と「経済正常化に伴う原油需要の回復」が必要となります。足元、世界は経済活動再開に踏み出していますが、感染再拡大も懸念されており、経済正常化にはなお時間を要しそうです。

ここもチェック!

2020年5月 1日 『原油価格下落』はプラス？ マイナス？
2020年4月21日 協調減産復帰も原油価格は下落続く（2020年4月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。